子どもの困り感に寄り添う

「困った子ども」として否定的にとらえてしまうのではなく、様々な問題状況をかかえて「困っている子ども」「苦戦している子ども」として理解し、その心に寄り添いながら、どのようにかかわっていくことがその子どもの成長につながるのかという視点に立つことが重要です。

▲▽　▲▽

1　子どもと学級の状態、状況

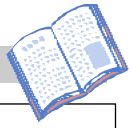
授業中教室を抜け出したり、休み時間が終わっても教室に戻ってこない。

・学習活動に取り組めない。興味をもった活動だけ。

・周りの子の言葉に反応して、物を投げたり教室を飛び出したりする。

〇学級が全体的に落ち着きがない。話をしっかり聞けない子が多く、学習に対して集中して取り組むことができない。

2　支援のポイント



① 担任一人では対応できない。学年体制、学校体制での支援の方法を考える

・校内電話での SOS →職員室にいる先生方に応援してもらう。

・行動パターンに合わせて、校内巡視や学級指導に入ってもらう

・学級の指導で不足の点は、学年全体で指導していく

（学年集会、各種行事への取り組み等）

➲ 自分だけで抱え込まない。助けてもらうのは当たり前

「助けられ上手は助け上手」

② 子どもとの関係をつくる

・興味関心のありかを探る

・小さな目標を立て、成功体験を積み重ねていく（行動のちょっとした変化を目標に）

➲ ともに頑張りを確かめ合えるように

③ 保護者との関係をつくる

→保護者を責めるのではなく、ともに考えていきましょうという姿勢で

・実態を正しく報告し理解してもらう

・どんな些細なことでもいいから、よかったこと、頑張ったことを積み重ね毎日報告する（連絡帳で）

・学校の支援策の具体化を図るために専門機関へつなげる

➲ ともに成長を喜び合えるように

④ 学級全体を育てる

・授業の準備をしっかり行い、授業を通して学級を育てていく

・学習に集中して取り組めるようになると心が落ち着いてくる

➲ 学年という大きな「枠」の中でお互いに刺激し合いながら成長させる

◎保護者も支えながら、協同作業で子どもの成長を見守っていく。
の手を借りて支援を行っていきたい。
「学校は、協力・協働の場」